

小学校ではキャンプや臨海学習、中学校では登山や文化祭に向けた準備、中体連県大会や各種コンクールに向けて熱のこもった練習が行われる時期です。こうした活動を通じた個々の成長や人間関係の深まりをしっかりと見とどけましょう。また、1学期に学級で行ってきた活動を振り返り、互いのよさやがんばりを認め合い、これからの取組の見通しをもって夏休みを迎えられるようにしたいものです。



<小学校>

学級づくりをキャリア教育の視点からみると

子どもの心に響く 褒め方・叱り方

教師は褒めることを常としながらも、時には子どもの成長を願い、叱る場面もあります。

褒めるとき

- ・低学年のうちは、とにかく、その子のよい姿を見つけて、たくさん褒める場をつくりましょう。
- ・発達段階に応じて、その子の努力した過程や、目的としていたことを認めながら賞賛し、自己肯定感を高められるよう支援しましょう。



叱るとき

- ・感情的にならず、その子の言い分を聞きながら、何がいけないのか、一つに絞って具体的に話しましょう。
- ・子どもによって叱る内容や教師の態度が変わりすぎると不信感につながるのを気をつけましょう。
- ・このままにしておけないと思う教師の願いや、その子を大切にしたい気持ちを伝えましょう。

※褒めたことは、保護者と共有することで効果がアップします。

学期末の自己評価の前に、「いいところ探し」をしてみませんか

学期末の自己評価をする前に、例えば次のように友だちのいいところを出し合う活動をすることで、互いが自己肯定感を高め、2学期につながる前向きな振り返りとなるでしょう。



- ① 1学期を振り返り、友だち（学級、生活班などを単位として）の「いいね！」と思ったことを一人について一つ、カードに書く。
- ② カードを教師が集め、内容や数の偏り等を確認した上で、画用紙等で作った台紙に貼る。
- ③ 台紙を掲示し、カードを見合う場を設ける。
- ④ 感想発表、教師による価値付けを行う。
- ⑤ 1学期を振り返っての自己評価を行う。

※友だちのよさを認め、協力して活動する中で、自分の持ち味や役割を自覚することができるようにすることは、小学校におけるキャリア教育の視点の一つです。

<中学校>

学級づくりをキャリア教育の視点からみると

行事で学級のまとまりを深めましょう

行事は、それぞれの生徒が主役になれる場面をつくることのできるチャンスです。一人一人の居場所(自己肯定感がもてる機会)をつくって、思い出に残る行事になるといいですね。

生徒を信じ、任せてみては… 「口を出さない」というのではなく、学級の雰囲気に応じ、バランスを考えた関わり方が大切です。リーダーを複数設け、責任を分担させてもよいでしょう。困っている生徒の話をしっかり聞いてあげましょう。

学級での話し合いが大切です めあてを話し合っ決めて、みんなが同じ方向を向き、協調性や自治力を養うことができます。集団が苦手な生徒にとって、話し合いを工夫することで大きく成長する場にもなります。

困った時には周りの先生に相談を 一人で悩まず、学年、学校で生徒を育てる雰囲気をつくりましょう。



係活動から学級のよさを見つけましょう

学級で行っている係活動では、できて当たり前と考え、できていない部分の反省を促す場面が多くなってしまいがちです。そうすると、生徒のよいところになかなか目が行かず、生徒にやらせるための指導に偏ってしまいます。

夏休みを前にして、学級で「係活動のおかげで、よくなったこと」のみに目を向けて、意見交換をしてみるのはいかがでしょうか。そして、学級がもっとよくなるポイントを絞り込んでいき、夏休み以降のめあて作りに取り組んでみませんか。ここでは、よくないこと・できていないことはいったん置いておき、学級全体で自分たちの成長を実感し合ひましょう。

※肯定的に自己理解をすることや人の役に立ったという自己有用感を獲得することは、中学校におけるキャリア教育の視点の一つです。

